

備前市事務事業評価表

(平成18年度事業)

事務事業名	非常備消防分団活動支援事業		コード	01-04-02-08
			担当課・係	総務課消防防災係
			担当者	中島 和久
			電話	64-1809
事業実施期間	昭和46年度から			
総合計画 事業(政策)体系	大項目(基本目標)	安全で快適に暮らせるまちづくり		
	中項目(基本施策)	安全で安心して暮らせるまちづくり		
	小項目(施策)	消防・防災(消防体制の整備、充実)		

事業について				
目的 (何のために)	消防団の円滑な団活動の実施、消防団員の確保や処遇改善を図る。			
対象 (誰・何を対象に)	消防団員			
内容	消防団報酬、活動費、団員の補償保険、消防団関係の協議会の負担金			

事業の結果			
実施項目	17年度		18年度
	回数など	(単位)	回数など (単位)
支援団員数	1,125	人	1,133 人
団員報酬	21,369	千円	21,654 千円
出勤延人数	9,374	人	7,755 人

事業費 (単位:千円)	事業費		財源		事業費		財源				
	直接事業費	74,512	間接補助金等		直接事業費	70,563	間接補助金等				
	人件費	10,070	受益者負担		人件費	6,976	受益者負担				
		市債				市債					
合計	84,582	一般財源等	84,582	合計	77,539	一般財源等	77,539	合計	0	一般財源等	0

必要人員	155		100	
結果指標	結果指標名	支援団員数		支援団員数
	結果指標量	1,125		1,133
	単位	名		名
	対前年比	-		100.71%
	活動にかかるコスト	58,329,000	円	55,306,000
単位当たりコスト	51,848	円	48,814	円
結果指標	結果指標名	出勤延人数		出勤延人数
	結果指標量	9,374		7,755
	単位	人		人
	対前年比	-		82.73%
	活動にかかるコスト	26,253,000	円	22,233,000
単位当たりコスト	2,801	円	2,867	円

事業の成果			
どのような成果を得ようとしているか	災害時に迅速な対応を行うための演習訓練回数		
成果指標名	消防団員一人当たりの演習訓練回数	式又は説明	演習訓練回数 ÷ 支援団員数
	17年度	18年度	
成果指標量	3.7	3.1	
対前年比	-	83.78%	
到達目標値	到達目標年度		

事務事業の評価				
目的・対象・内容の妥当性評価	目的の妥当性	<input checked="" type="checkbox"/> 関係法令等で目的が定められており妥当である <input type="checkbox"/> 事業開始当初の目的は、ほぼ達成されている <input type="checkbox"/> 事業開始当初の目的から変化しつつある <input checked="" type="checkbox"/> 現在の市を取り巻く環境からも目的は妥当である <input type="checkbox"/> 関係法令等: 消防組織法	妥当性評価 < A ~ E >	B
	対象の妥当性	<input type="checkbox"/> 受益者の拡大を検討する余地がある <input type="checkbox"/> 受益者の縮小を検討する余地がある <input checked="" type="checkbox"/> 現在の対象者は妥当である	課題認識	常備消防を補う事業であり妥当である。
	市民ニーズの妥当性	<input checked="" type="checkbox"/> 市民、団体などから要望・要請のある事業である <input checked="" type="checkbox"/> 市民に概ね好評な事業である <input checked="" type="checkbox"/> 公共秩序の維持、行政の適正運営に必要な事業である		
	市の関与の妥当性	<input checked="" type="checkbox"/> 国・県又は関係法令で定められている事業である <input type="checkbox"/> 民間に類似サービスがある <input checked="" type="checkbox"/> 本市が関与すべき事業である <input checked="" type="checkbox"/> 事業を取り止めた場合の影響は大である		
コストの効率化	<input type="checkbox"/> 単位当たりコストは増加傾向にある <input type="checkbox"/> コスト削減の努力をしている <input type="checkbox"/> できる限り民間活力を利用している <input type="checkbox"/> 受益者負担額は適正である	効率性評価 < A ~ E >		
効率性の評価	手段の最適化	<input type="checkbox"/> 最適な手段を求めて職場内で確認・見直しを行っている <input checked="" type="checkbox"/> 他に有効な代替手段が見当たらない <input checked="" type="checkbox"/> 事業は他部署と密接な連絡調整を行っている	課題認識	団員出勤に対する手当てが主であるが、報酬体系(組織)を見直す必要がある。
	職場の効率化	<input type="checkbox"/> 事業に関するOJT(職場研修)は行われている <input type="checkbox"/> 事業の進行管理を定期的に行っている <input type="checkbox"/> 事業実施について職員の見解・要望が反映しやすい		
有効性の評価	目的達成度	<input type="checkbox"/> 成果指標の目標値は目標年度に達成できそうである <input type="checkbox"/> 成果指標は前年度より向上している	有効性評価 < A ~ E >	C
	成果向上の可能性	<input type="checkbox"/> 成果は向上しており今後も向上する見込みである <input type="checkbox"/> 今後、成果指標は向上する余地がある	課題認識	
市民参画度	<input type="checkbox"/> 事業について積極的に情報提供している <input checked="" type="checkbox"/> 事業実施等で積極的に市民意見を反映している <input type="checkbox"/> 事業にはNPO、ボランティア団体等が参画している <input type="checkbox"/> 事業のプラン作りから市民参加を得る手段をとっている	演習訓練参加団員の固定化が見受けられる。		

事業の目的、対象、内容を考えながら目的の妥当性の評価を行って下さい。

事業費や単位当たりコストに留意しながら効率性の評価を行って下さい。

事業の目的やその数値目標である成果指標に留意しながら有効性の評価を行って下さい。

平成19年度の状況		説明		
<input type="checkbox"/> 重点化している	<input type="checkbox"/> 休止している			
<input type="checkbox"/> 前年度と同様に継続している	<input type="checkbox"/> 他の事業と統合している			
<input checked="" type="checkbox"/> 見直し継続している	<input type="checkbox"/> 平成18年度で廃止・完了	合併後3年目に入ることから、日生方面隊及び吉永方面隊の報酬額を備前方面隊の報酬額に統一。こうしたことから、費用が増す。		
<input type="checkbox"/> 事業を縮小している				
目標値	結果指標量	1,135	結果指標量	9,000
	成果指標量	3.8		

総合評価	非常時に備え、日頃から訓練、予防活動等を行いながら、消防の目的を達成していかなければならない。また、人材確保のため女性消防団員の加入促進や団員が出動しやすい環境づくりが必要である	評価区分 < A ~ E >	C
------	---	----------------	---

平成20年度以降の方向性	<input type="checkbox"/> さらに重点化する(行政資源を集中的に投入する)	<input type="checkbox"/> 事業の縮小を検討する
<input type="checkbox"/> 現状のまま継続する	<input type="checkbox"/> 休止・廃止を検討する	<input type="checkbox"/> 平成19年度で廃止・完了
<input checked="" type="checkbox"/> 見直しのうえで継続する	<input type="checkbox"/> 他の事業と統合を検討する	

平成20年度以降の改善事項			
評価の視点	改善内容	改善時期	改善により期待される効果
有効性	団員の出動しやすい職場への協力要請	平成20年度以降	非常時での出勤団員数が増加し、地域での防災活動が充実する
妥当性	消防団員の確保	平成20年度以降	団員定数に合致した支援を行うことができ、非常時の体制が整う